

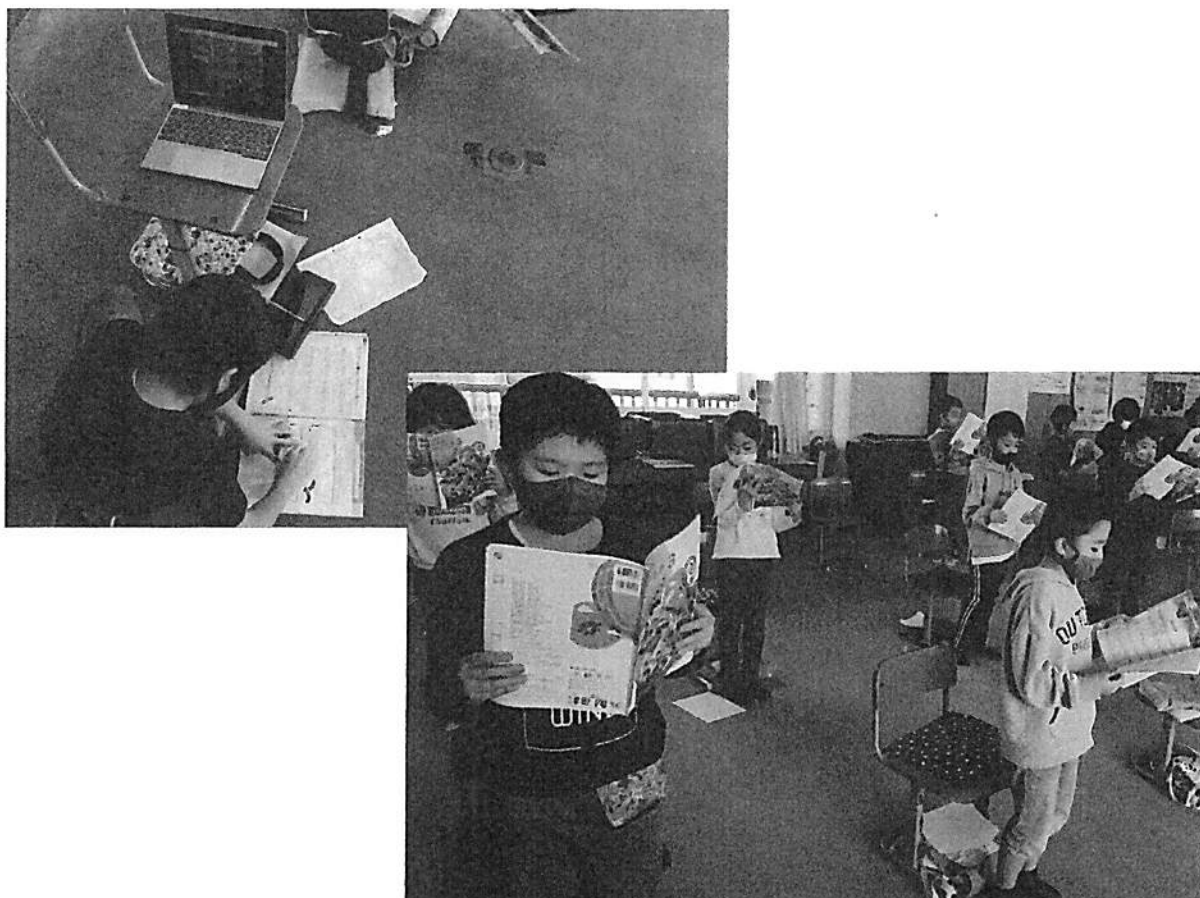
令和3年度 第71次印旛地区教育研究集会
音楽分科会提案資料

音楽研究部 研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題

「音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって歌唱表現する児童の育成」



第二部会

富里市立富里南小学校 麻生 麻耶

1 研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

「音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって歌唱表現をする児童の育成」

3 副主題設定の理由

(1) 学習指導要領との関わり

小学校学習指導要領 第2章各教科 第6節 音楽の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などに関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性をはぐくむとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

児童が生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、児童が思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりする過程において、理解したり考えたりしたこと、音楽を豊かに表現したこと、友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図って交流し共有したり共感したりしたことなどが、自分の生活や自分たちを取り巻く社会とどのように関わり、また、どのような意味があるのかについて意識できるようにすることが大切である。

これを受け本校では、思いや意図をもって表現できるような手立てを教師が設定することで、児童の音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成したいと考え、本副主題を設定した。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「豊かな心と確かな学力をもち、健康でたくましく生きる児童の育成」である。めざす児童像としては「思いやりがあり、素直な子 よく考え判断し、表現できる子 健康でねばり強い子」の3つを掲げ、日々努力をしている。

豊かな心をもち、よく考え判断し、表現できる児童を育成するためには、音楽の学習でも、音楽的な見方・考え方を働かせ、自らの思いや意図をもって主体的に表現することが大切であると考え、本副主題を設定した。

(3) 児童の実態から

富里南小学校は富里市の南部にあり、学区は成田市、八街市、山武市、芝山町に接している。純農村的な地域であり、住宅の増加と共に児童数も徐々に増えていったが、近年、減少傾向にある。平成29年からは、洗心小学校と統合し、開設93年目を迎え、2021年度は16学級（特別支援3学級を含む）となっている。

本研究を始めるにあたり、事前のアンケートを行ったところ、9割以上の児童が音楽の学習を好きまたはどちらかといえば好きと回答している。また、6割の児童が、歌唱表現が好きだと答えた。歌う時に気を付けていることを問うと、多くの児童が「姿勢」「怒鳴らない」「きれいな声」と回答した。

しかし、思いや意図をもって歌うことを意識している児童は少なく、音楽を形づくっている要素についての理解が乏しいことが分かった。




このような児童の実態から、多くの児童が意欲的に取り組んでいる歌唱を、自らの思いや意図をもって表現することができるようにしたいと考え、本副主題を設定した。

4 研究仮説

【仮説1】 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る場面を位置づけていけば、思いや意図を歌唱表現することができるであろう。

【仮説2】 友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら協働して音楽活動することで、一人一人が表現方法に思いや意図をもち、歌唱表現することができるであろう。

5 めざす児童像とそのための手立て

	めざす児童像	手立て
仮説1	<p>楽曲を聴いたり、歌ったりした時に、楽曲の感じを考えたり、情景を思い浮かべたりすることができる。</p>  <p>楽曲を聴いたり、歌ったりした時に、音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることができる。</p>  <p>思いや意図をもって歌唱表現できる。</p>	<p>①ミニ鑑賞タイムを設け、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る場面を位置付ける。</p> <p>②初めて楽曲を聴いた時に、どんな感じがしたのか、考える時間を設け、それと音楽を形づくっている要素の働きとの関係を考えていく。</p> <p>③専科が授業を行っていない低学年の学習でおさえるべきことやポイントを提示していく。</p>
仮説2	<p>友達と協働して音楽活動をすることで、考えが深まったり、違う考えをもったりすることができる。</p>  <p>思いや意図をもって歌唱表現できる。</p>	<p>④友達と考えを共有する場面を設定することで、思いや意図が深められるようにしていく。</p> <p>⑤友達と考えを共有する前に、ワークシートに自分の思いや意図を記入することで、主体的に参加できるようにしていく。</p> <p>⑥タブレットで自分の歌声を撮影、視聴することで、客観的に自分の演奏を確認し、演奏に活かしていく。</p> <p>⑦友達と聴き合う場面を設け、思いや意図が伝わる表現になっているかを確認し合い、自分の演奏に活かしていく。</p>

*鑑賞で聴き取ったことや、自分の思いを表す時に、「音楽の感じを表す言葉（教科書76ページ）」を活用する。音楽を表す言葉を知ることができ、どのような言葉で表したらよいか確認させたり選んだりさせる。

音楽を表すいろいろな言葉

速さや強さを表す言葉のれい

ゆっくり 速い 強い 弱い など

「少し速い」「だんだん弱くなった」などのように言うこともある。

せんりつなどの動きを表す言葉のれい

上がっていく 下がっていく 音がとぶ 動きが少ない など

しくみを表す言葉のれい

くり返す よびかけたりこたえたりする また出てくる かわる など

音楽の感じを表す言葉のれい

楽しい	明るい	元気な	かろやかな	はずんだ
悲しい	暗い	しずかな	おどけた	ゆったりとした
はげしい	いさましい	はく力のある	はなやかな	やわらかい
やさしい	さびしい	かわいらしい	なめらかな	ふしぎな
つつく	落ち着く	終わる	など	

教育出版「音楽のおくりもの」より

6 検証授業1（令和元年12月 第4学年）

(1) 題材名 せんりつと音色

教材名 表現（歌唱）「ゆかいに歩けば」 作詞：保富庚午／作曲：リドリル・マ-／編曲：大畑みどり
「とんび」 作詞：葛原しげる／作曲：梁田貞

(2) 題材の目標

旋律の流れやフレーズ、強弱、歌詞の変化などから曲想を捉え、旋律の感じに合った声や歌い方を工夫する。

(3) 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①音楽の流れを体全体で受け止め、歌唱表現をしようとしている。	①旋律の流れやフレーズなどを感じ取って歌ったり、体の動きを伴った活動をしたりしている。 ②歌詞の表す情景を想像するとともに、歌詞と旋律、歌詞とリズムの関連などを感じ取って、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫している。	①旋律の流れやフレーズ、強弱の変化に目を向け、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌っている。 ②友達の歌声や伴奏を聴きながら、自分の声を合わせて斉唱をしている。

(4) 仮説に係る手立て

仮説 1	①授業の始め5分程度で、ミニ鑑賞タイムを設け、楽曲の様子を話し合う常時活動を行う。
仮説 2	⑤まずは一人一人がどのように歌いたいかという思いをもち、その思いをグループの中で話し合っグループの考えとしていく。そこから、表現の工夫へとつなげていく。 ⑥工夫しているつもりでも強弱の幅が狭かったり、はっきりと歌えていなかったりするので、自分達の表現が思いの通りになっているか、タブレットで撮影して確認させ、よりよい表現になるようにさせていく。 ⑦学習の最後に、友達に聴いてもらう場面を設け、思いが伝わる表現になっているかを確認し合い、思いをもって歌うよさを感じさせる。

(5) 学習内容と指導の実際（4時間扱い）

時間	○学習内容 ・学習活動や教師の働きかけ ◇評価規準【評価の方法】	・児童の様子
ねらい	曲想を捉え、旋律に合った歌い方を工夫する。	
第一 次	<p>1 ○<u>ミニ鑑賞タイム</u>を行う。</p> <p>・「トルコ行進曲」を聴かせ、 行進の動きを想像させる。</p> <p>・友達と意見交換させる。</p> <p>○「ゆかいに歩けば」の範唱を聴き、楽曲の感じをつかむ。</p> <p>・楽曲の感じが変わる場所がどこかについて考えながら聴かせる。</p> <p>・児童の感じ取った旋律の変化について、楽譜を見て確認する。(スタッカートの付いている音符に丸を付けることで、歌う時にも意識をさせる。)</p> <p>○はずんだ感じとなめらかな感じを意識しながら歌う。</p> <p>・主旋律を歌わせる。</p> <p>◇(関一①) 音楽の流れを体全体で受け止め、歌唱表現をしようとしている。</p>	<p>・曲の後半部で音がだんだん弱くなっていることに気付いた。行進がどうなったかを友達と意見交換すると、「遠ざかっていく。」や「離れていく。」「帰っていく。」などの意見が出てきた。最後に、音がだんだん弱くなると、遠くにいく感じがすることを確認した。</p> <p>・「ゆかいに歩けば、歌もはずむ」をスタッカートなしで歌って比べてみると、児童から「スタッカートがついているから跳ねている感じがするんだ。」という声が聞かれた。前半部と後半部の違いを意識して、歌に表すことができた。</p>

【行動の観察】

	<p>2 ○<u>ミニ鑑賞タイム</u>を行う。</p> <p>手立て①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雷鳴と電光」を聴かせ、雷が近づいてくるのを想像させる。 ・友達と意見交換させる。 <p>○「ゆかいに歩けば」をスタッカートの歌い方を意識しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片足立ちをして、下腹部に力が入っていることを意識させ、そのまま両足立ちをして歌わせる。(お腹を使って歌うことを意識させる。) ・スタッカートで歌う部分で、短くぶつ切りになるのではなくはずむように歌えるように声かけをする。 ・はずんだ感じで歌うスタッカートの部分となめらかな感じのレガートで歌う部分に注意しながら歌わせる。 <p>◇(技一①) 旋律の流れやフレーズ、強弱の変化に目を向け、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌っている。【顔の表情、発声の仕方の観察】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲中で大太鼓のロールがクレシェンドしているのを聴いて、「雷が近づいている。」と児童から出てきた。 ・雷が落ちている様子を手で表現する児童もいた。 ・最後に、音がだんだん強くなると、近づいている感じがすることを確認した。
<p>第 二 次</p>	<p>ねらい 曲想を意識し、グループごとに旋律に合った声や歌い方を工夫する。</p> <p>3 ○<u>ミニ鑑賞タイム</u>を行う。</p> <p>手立て①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おどるこねこ」を聴かせ、2匹のねこの呼びかけとこたえを想像させる。 ・友達と意見交換させる。 <p>○「とんび」の範唱を聴いたり、範唱で歌ったりして楽曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんびが飛んでいる写真を見せたり、鳴き声を聴かせたりすることで、様子を想像しやすくさせる。 ・主旋律を歌わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねこが話していることに、すぐに気付いたが、会話しているとは出てこなかった。「何匹いるかな？」と問うと、2匹で話をしていると出てきた。 ・曲に合わせて手を動かしてみようと声かけすると、右手と左手が呼びかけとこたえになるように動かしていた。最後に、音楽で会話していることを呼びかけとこたえということを確認した。

○第1, 2, 4フレーズの強弱を意識して歌う。

- 教科書の楽譜の音符を線で結び、旋律の動きを確認させる。
- 旋律の動きに合わせて手を動かしてみたり、歌詞から、とんびが悠々と旋回しながら飛んでいる情景を思い浮かべたりさせる。
- 旋律の動きから、クレシェンドとデクレシェンドの意味とその効果を確認する。
- クレシェンドとデクレシェンドを意識して、表現を工夫して歌わせる。

○とんびがどのように飛んでいるのか想像し、一人一人が思いをもつ。

手立て⑤

- ワークシートにどのように飛んでいるのかを記入させる。
- 飛んでいる様子がわかるように、第3フレーズをどのように歌いたいか記入させる。



◇(エ-①) 旋律の流れやフレーズなどを感じ取って歌ったり、体の動きを伴った活動をしったりしている。【活動の観察】

4 ○ミニ鑑賞タイムを行う。

手立て①

- 「おもちゃの兵隊」の中間部に続くデクレシェンドの部分聴かせ、兵隊の動きを想像させる。
- 友達と意見交換させる。

○「とんび」を強弱に気を付けながら歌う。

- 情景を思い浮かべながら歌わせる。
- 第1, 2, 4フレーズの強弱が旋律の動きと合っていることを確認する。



- 第1時、第2時で強弱によって動きが分かることを確認していたので、兵隊の動きを想像しやすかったようだ。自然と兵隊の動きを手の動きで表している児童もいた。

○とんぴが飛んでいる情景の例と、それに合った工夫の例を示す。

- 表現を工夫するために、どのような工夫ができるか例示し、考える手助けとする。

○第3フレーズの強弱について、グループで表現を工夫する。

- とんぴがどんな様子で「ピンヨロー」と鳴いているのかを話し合わせる。
- 考える時に、「一度決めたら試して、更により案がないか再び考える」のサイクルで考えさせる。
- 自分たちの演奏を録音して、聴くことで、表現の工夫ができているかを確認させる。

手立て⑥

- 視覚的にも強弱の変化が理解できるように、拡大楽譜に強弱を記入させていく。

○グループごとに発表し合い、聴き合う。

- グループごとに考えた情景と合った工夫になっているか、注目しながら聴かせる。
- グループごとに旋律の表現の工夫が違うことを感じ取り、友達表現の工夫のよさに気付くよう、声かけをする。
- 各グループの発表後に、各グループの表現と音楽を形づくっている要素を結び付けられるようにする。

手立て⑦

◇(工一②) 歌詞の表す情景を想像するとともに、歌詞と旋律、歌詞とリズムの関連などを感じ取って、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫している。【活動の観察】

◇(技一②) 友達の歌声や伴奏を聴きながら、自分の声を合わせて斉唱をしている。

【顔の表情、発表の様子】

- ミニ鑑賞タイムで強弱と動きの関係を聴き取っていたので、「遠くにいくようにしたい時は？」と聞くと「デクレシェンドすればよい。」とすぐに答えることができた。

- 同じ思いの児童でグループを組んだので、意見がまとまりやすかった。すぐに歌の練習ができ、録音を聴いて、更によくなるように話し合うことができていた。

- 回っている様子を表現したいグループは人数が多く、その中でも大きく1回転するだけではなく、2回転している、4回転していると考えた児童がいた。友だちの意見に合わせてしまい、自分の意見を歌に反映できない児童もいた。

- 会話していると考えたグループは、強弱での変化ではなく、音色の工夫を考えていた。

- 発表後に、「どうだった？」と問うと、「デクレシェンドしていて遠くにいてみたいだった。」などの答えが出てきた。音楽を形づくっている要素に係る言葉が児童から出てきて、強弱のよさや面白さを感じるようになっていた。

(6) 成果と課題

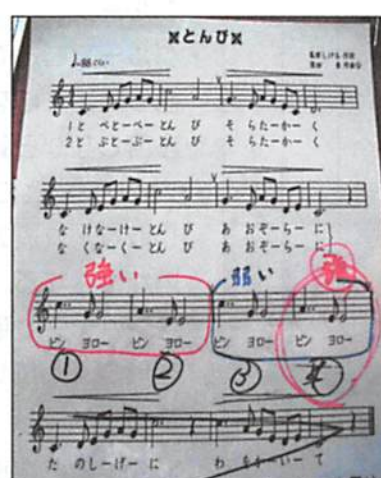
- ①成果 ○ミニ鑑賞を常時活動に取り入れたので、「とんび」の第3フレーズの工夫を考える際に、強弱と動きの関係をイメージしやすく、効果的だった。

○グループで考えを共有する前に、一人一人がワークシートに思いを記入したので、同じ思いをもつ児童でグループを組むことができ、表現の工夫や歌唱練習を効果的に行えた。また、主体的に取り組み、グループの中で思いを認められ、意欲的に歌唱表現できていた。

○録音を聴くことで、自分たちの歌を客観的に振り返り、更により歌にできるよう、練習を重ねることができた。

○事後調査では、全ての児童が自分の思いを歌に表すことができ、自信をもって歌うことができたと回答している。また、「強弱が違っていると、とんびが飛んでいる様子が変わる。」や「強弱で動きがわかる。」など、約9割の児童が強弱のよさを捉えることができた。

- ②課題 ●グループの人数にばらつきがあり、大人数のグループでは、自分の思いを反映できない児童がいた。一人一人の思いを反映できるグループの人数を考える必要がある。
- グループ活動が20分程度だったので、歌う練習の時間が十分ではなかった。思いや意図を表現するためには、もう少し時間が必要であった。
- 「強弱によって飛んでいる様子を表す」としたが、児童の思いに音色の工夫があったので、認めてもよかった。



7 検証授業2 (令和2年12月 第3学年)

(1) 題材名 せんりつと音色

教材名 表現(歌唱)「森の子もり歌」作詞：蓬萊泰三／作曲：菊地雅春／編曲：佐伯孝一
「雪のおどり」 作詞：油井圭三、チェコ／スロバキア民謡

(2) 題材の目標

○曲想とフレーズなどの音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)

○音色、音楽の縦と横との関係、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。(思考・判断・表現)

○曲想を生かして表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知曲想とフレーズなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付いている。</p> <p>技思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。</p>	<p>思一①「森の子もり歌」の曲想とフレーズや、歌詞の内容を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>思一②「雪のおどり」の音色、縦と横の関係、音の重なりなどの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態曲想を生かして表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。</p>

(4) 仮説に係る手立て

仮説1	<p>①授業の始め5分程度で、ミニ鑑賞タイムを設け、楽曲の様子を話し合う常時活動を行う。</p> <p>②「雪のおどり」ではしんと降り積もる雪の様子をイメージし、ふさわしい音色で歌ったり、楽器を選んで合わせたりしていく。</p>
仮説2	<p>④同じ思いをもつ児童同士でグループをつくり、話し合う中でグループの考えとしていく。そこから、表現の工夫へとつなげていく。</p> <p>⑤ワークシートに、母さん鳥とちびっこ鳥にふきだしをつけ、「ピラロ ルラ」はなんと言っているのか言葉を考え、話しかけるようにする。そこから、その様子に合った音色にするにはどうしたらよいか、思いをもって歌えるようにする。</p> <p>⑦他のグループの友達に発表を聴いてもらうことで、思いが伝わるよさを感じ、更により歌声をつくらうという意欲をもてるようにする。</p>

(5) 学習内容と指導の実際（4時間扱い）

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・教師の働きかけ	・児童の様子	評価規準 (評価方法)		
				知	思	態
◎ 曲想とフレーズや、歌詞の内容との関わりに気付くとともに、声を合わせて歌う技能や、楽器を演奏する技能を身に付ける。				技		
第1次	第1時	<p>○<u>ミニ鑑賞タイム</u>を行う。 ・組曲「動物の謝肉祭」より「森の奥のかっこう」を鑑賞し、音楽の特徴で気付いたことや感じたことを記入し、友達と意見交流させる。</p> <p>○「森の子もり歌」の範唱を聴き、楽曲の感じをつかんで歌う。 ・範唱を聴きながら、旋律に慣れて歌えるようにする。</p> <p>○歌詞の表す情景を思い浮かべて歌う。 ・1番は、夜に歌う母さん鳥の子もり歌で、2番は、ちびっこ鳥の朝の歌であることに気付かせ、表現に生かせるようにさせる。</p> <p>・どのような音色で歌うとよいのかを、全体で意見交換し、思いをもって歌えるようにさせる。</p> <p>○母さん鳥とちびっこ鳥にふきだしをつけ、「ピロロ ルラ」はなんとやっているのか言葉を考える。 ・一人一人が「ピロロ ルラ」の歌い方に<u>思いをもてるよう、ふきだしの言葉を考えさせる。</u></p> <p>・教科書 P. 76 の「音楽の感じを表す言葉のれい」を参考に、どのような音色で歌うとよいかを考えるように、声かけをする。</p>	<p>・何の動物を表しているのかを考えながら曲を聴いた。途中で鳴き声が聞こえてきて、かっこうみたいだと話していた。どんな感じがしたかを問うと、「ゆったりしている。」「優しい。」「やわらかい。」と友達と話をしていた。</p> <p>・1番は母さん鳥の子もり歌なので、優しく、静かに、落ち着くように、2番はちびっこ鳥の朝の歌なので、明るく、元気に、わくわくした音色で歌うことができた。</p> <p>・母さん鳥とちびっこ鳥が会話している様に吹き出しに言葉を書き入れることができた。また、その言葉に合った音色を、教科書 P. 76 の「音楽の感じを表す言葉のれい」を参考に考えることができた。</p>			
第2時	第2時	<p>○<u>ミニ鑑賞タイム</u>を行う。 ・組曲「動物の謝肉祭」より「水族館」を鑑賞し、音楽の特徴で気付いたことや感じたことを記入し、友達と意見交流する。</p>	<p>・教科書 P. 76 の「音楽の感じを表す言葉のれい」から、不思議な感じや ゆったりとした感じなどを感じ取っていた。</p>			

思①（記述・発言）

○前時の活動を振り返り、「森の子もり歌」を歌う。

- ・1番と2番の違いを確認し、どのように歌うとよいか思い出させてから歌わせる。

○「ピラロ ルラ」を会話するように歌う工夫をグループで考え、前半部を歌う。

- ・同じ思いをもつ児童同士でグループをつくり、歌い方の工夫を考えさせる。
- ・どのような音色で歌うと思いに合うかを話し合い、拡大譜に記入させる。

手立て④



○グループごとに発表し、聴き合う。

- ・グループごとの思いに合った工夫になっているかに注目しながら聴く。

手立て⑦

- ・前時に一人一人が思いをワークシートに記入していたので、見返し、みんなの思いを反映させようと話し合って決め、歌っていた。

- ・他のグループの発表を聴いて、「ちびっこ鳥が眠そうな感じに聴こえた。」や「まだ寝たくない様子がわかった。」という感想が聞かれた。グループの思いを歌に表すことができていた。

◎ 音色、音楽の縦と横との関係、音の重なりなどが生み出すよさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫する。

第 3 次 時

○ミニ鑑賞タイムを行う。

- ・組曲「動物の謝肉祭」より「象」を鑑賞し、音楽の特徴で気付いたことや感じたことを記入し、友達と意見交流する。

手立て①

「音が低いから。」「ゆったりしている。」「重たそう。」と友達と話をしていた。象や亀、大きな鳥などを想像していた。

○「雪のおどり」の範唱を聴き、楽曲の感じをつかんで歌う。

- ・範唱を聴きながら歌う。
- ・「こんこん」「ずんずん」「ふれふれ」などの言葉の響きや反復の面白さを感じながら歌う。

- ・始めは言葉の響きの面白さから、元気よく歌う児童が多かった。「雪はどんな風に降る？」と問うと、優しくやさらさらと降ることに気付き、音色にも気を付けることができた。

技 (聴取)

態 (観察・記述)

思② (発言・聴取)

<ul style="list-style-type: none"> ・「レラレラ」と「ファレファレ」の2つのフレーズがあり、変化していることに気を付けて歌わせる。 ・「レラレラ」「ファレファレ」の<u>反復の部分で、雪が降っている様に、音色に気を付けて鈴を鳴らしながら歌わせる。</u> <p>○輪唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2グループに分かれて、2小節遅れで輪唱する。 ・4グループに分かれて、2小節遅れで輪唱する。 ・円になって歌うことで、音や動きで音楽の縦と横の関係を捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴を鳴らす時も、鳴らすことを楽しんでいる児童がいたが、雪が降るように意識させると、優しい音色で演奏することができた。 ・輪唱で、重なることに気づき、楽しみながら声を合わせて歌っていた。 	
<p>○ミニ鑑賞タイムを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組曲「動物の謝肉祭」より「カンガルー」を鑑賞し、音楽の特徴で気付いたことや感じたことを記入し、友達と意見交流する。 <p>○前時の活動を振り返り、「雪のおどり」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斉唱で歌う。 ・2グループに分かれて輪唱する。 <p>○伴奏と合わせて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートのリズムや階名を確認する。 ・リズムに言葉を付けて歌うことで、リズムを捉えやすくする。 ・担当する楽器を替えて、演奏する。 	<p>○手立て①</p> <p>はずむ感じがすぐに分かり、「うさぎかな？カンガルーかな？」と友達と意見交流していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌っている。 	

(6) 成果と課題

①成果 ○ミニ鑑賞を常時活動に取り入れたのが初めてだったので、児童が想像しやすい動物の曲の鑑賞を行った。教科書 P. 76 の「音楽の感じを表す言葉のれい」の中からちょうど合う言葉を選ぶところから始めた。音楽の感じに注目することができたことが、「森の子もり歌」の音色の工夫につながり、よかった。

○グループで話し合う前に、一人一人がワークシートに思いを記入したことで、同じ思いをもつ児童同士でグループを組んだことで、自分の思いをグループの思いとして反映させようと、意欲的に話し合い、音色の工夫をすることができていた。

②課題 ●母さん鳥とちびっこ鳥の会話を想定していたので、ミニ鑑賞で呼びかけとこたえの曲を取り上げると、更に会話という意識ができたのではないか。

●グループ活動が活発に行われていたが、話す時間が多く、歌う時間が少なかった。音楽の学習なので、歌うことを多く確保できるよう考える必要があった。

→コロナ禍のため、歌うことに制限あり・・・

●児童は、思いを表現できたという満足感をもつことができた。練習の時には上手に歌えていたが、発表では緊張して上手くできなかったグループがあった。自信をもって歌える練習時間を確保したり、人前で歌うことをくり返し行ったりしていく必要がある。

8 検証授業3（令和3年6月 第4学年）

(1) 題材名 曲に合った歌い方（5時間）

教材名 表現（歌唱）「ゆかいに歩けば」作詞：保富庚午／作曲：リドリル・マ／編曲：大畑みどり
「とんび」 作詞：葛原しげる／作曲：梁田貞

(2) 題材の目標

○曲想と旋律などの音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。（知識及び技能）

○旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。（思考・判断・表現）

○曲想を生かして表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

(3) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。</p> <p>技 思いや意図に合った音楽を表現するために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。</p>	<p>思 音色、旋律、強弱、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p>	<p>態 曲想を生かして表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。</p>

(4) 仮説に係る手立て

仮説 1	①授業の始め5分程度で、ミニ鑑賞タイムを設け、楽曲の様子を話し合う常時活動を行う。 ②初めて楽曲を聴いた時に、どんな感じがしたのか考える。それが音楽を形づくっている要素の働きであることを確認していく。
仮説 2	⑤一人一人がどのように歌いたいかという思いをもてるように、ワークシートに考えを記入させ、表現の工夫へとつなげていく。 ⑥工夫しているつもりでも強弱の幅が狭かったり、はっきりと歌えていなかったりするので、自分達の表現が思いの通りになっているか、タブレットで撮影して確認させ、よりよい表現になるようにさせていく。

(5) 学習内容と指導の実際 (5時間扱い)

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・教師の働きかけ	・児童の様子	評価規準 (評価方法)		
				知	思	態
◎ 旋律などが生み出すよさを感じ取りながら、表現を工夫するとともに、声を合わせて歌う技能を身に付ける。				技		
第1次	第1時	<p>○ミニ鑑賞タイムを行う。</p> <p>・「トルコ行進曲」を聴かせ、手立て① 行進の動きを想像させる。 ・友達と意見交換させる。</p> <p>○「ゆかいに歩けば」の範唱を聴き、楽曲の感じをつかむ。 ・楽曲の感じが変わる場所がどこかについて考えながら聴く。 ・<u>はずんで歌う前半部となめらかに歌う後半部がそれぞれどんな感じだったか、比べることで、変化に気付かせる。</u> 手立て②</p> <p>・児童の感じ取った旋律の変化について、楽譜を見て確認する。(スタッカートの確認)</p> <p>○はずんだ感じとなめらかな感じを意識しながら歌う。 ・主旋律を歌わせる。</p>	<p>・強弱に気を付けて聴くように声かけしたが、今まで曲の感じに気を付けて聴くことが多かったので、元気な感じや続く感じという言葉が多く出てきた。強弱に強調して再度聴くと、だんだん弱くなって終わり、遠ざかっていることに気付けた。</p> <p>・「前半部はどんな感じ？」と聴くと、跳ねている。「楽しい。」「うきうきしている。」という答えが返ってきた。なんでそのような感じがするのか探っていこうと授業を進めていった。</p> <p>・スキップしたり、ジャンプしたりしながら、スタッカートの効果を感じて歌うことができた。</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・個々にタブレットで撮影し、違いが表現できているか確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の歌を聴き、できていると喜んでいたり、再度録音して確認したりしていた。
<p>第2時</p>	<p>○ミニ鑑賞タイムを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雷鳴と電光」を聴かせ、雷が近づいてくるのを想像させる。 ・友達と意見交換させる。 <p>○「ゆかいに歩けば」をスタッカートの歌い方を意識しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片足立ちをして、下腹部に力が入っていることを意識させ、そのまま両足立ちをして歌わせる。 ・はずんだ感じで歌うスタッカートの部分となめらかな感じのレガートに歌う部分に注意しながら歌う。 ・個々にタブレットで撮影し、違いが表現できているか確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強弱に気を付けて聴くことができた。雷はどうなったかとその理由について意見交換させると、「強くなったから、近づいてきた。」などを話し合っていた。 ・身体を動かしながらではなく、お腹から声を出す歌い方を学習した。スタッカート部分とレガート部分の違いを意識しながら歌うことができた。 ・自分ではやっているつもりだが、実際の表現には生かされていない児童が多いと感じたが、録音することで客観的に活動に取り組むことができた。
<p>◎</p>	<p>旋律や強弱などが生み出すよさを感じ取りながら、表現を工夫する。</p>	
<p>第2次</p>	<p>第3時</p> <p>○ミニ鑑賞タイムを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもちゃの兵隊」の中間部に続くテクレシェンドを聴かせ、兵隊の動きを想像させる。 ・友達と意見交換させる。 <p>○「とんび」の範唱を聴いたり、歌ったりして楽曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いてどんな感じがしたかを確認してから、旋律の動きを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・とんびが飛んでいる写真を見せたり、鳴き声を聴かせたりすることで、様子を想像しやすくさせる。 ・主旋律を歌わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時と第2時で強弱に気を付けて聴いていたので、すぐに兵隊が遠ざかっていることに気付いた。理由を意見交換させると、だんだん弱くなっていることを友達と確認していた。 ・「この曲はどんな感じの曲かを児童に聞くと、「とんびがゆったりとんでいる。」や「空高く上がったり、風によって下りてきたりしている。」と答えた。

知技 (聴取・発言)

態 (観察・記述)

○第1, 2, 4フレーズの強弱を意識して歌う。

- 旋律の動きに合わせて手を動かし、旋律が山のように上がって下がってしていることを確認する。
- 旋律の動きから、クレシェンドとデクレシェンドの意味とその効果を確認する。
- クレシェンドとデクレシェンドを意識して、表現を工夫して歌わせる。

• タブレットで撮影して、クレシェンドとデクレシェンドが表現できているか確認させる。

手立て⑥

○とんびがどのように飛んでいるのか想像し、ワークシートに一人一人が思いを記入する。

- どのように飛んでいるかを記入させる。
- 飛んでいる様子がわかるように、第3フレーズをどのように歌いたいかを記入させる。
- 強弱による工夫だけではなく、音色の工夫も認め、自分の思いを表現できるように支援する。

手立て⑤

• 旋律の動きに合わせて手を動かすと、「山みたい。」だけではなく、「とんびが風によって飛んでいるみたい。」という意見が児童から出てきた。クレシェンドとデクレシェンドしながら歌ってみると、更に、飛んでいるようだと言う児童が多くみられた。

• 録画にも慣れ、何度も歌い、確認する児童が増えた。

• 近づいているや遠ざかっている、旋回していると想像した児童は、強弱による工夫を考えた。2羽で話をしているや家族で仲良く飛んでいる等と想像した児童は、音色の工夫を考えていた。

第4時

○ミニ鑑賞タイムを行う。

- 「おどるこねこ」を聴かせ
- 2匹のねこの呼びかけとこたえを想像させる。
- 友達と意見交換させる。

手立て①

○「とんび」を強弱に気を付けながら歌う。



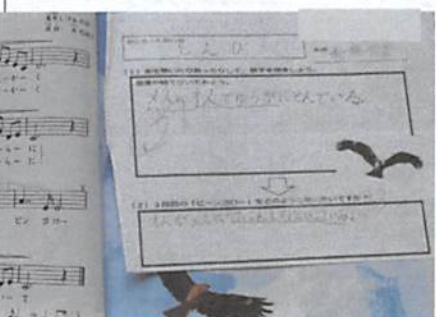
- 第1, 2, 4フレーズの強弱が旋律の動きと合っていることを確認する。

○第3フレーズの強弱や音色について、表現を工夫する。

- 前時のワークシートに合った4回の「ピンヨロー」の歌い方を考え、楽譜に記入させる。
- 各自で表現の工夫をしながら、歌う練習をする。

• ねこの鳴き声に注目して聴いた。呼びかけとこたえという言葉が児童から出てきたので、右手と左手をねこに見立て、鳴き声のところで動かし、呼びかけとこたえを実感することができた。

• 自分なりに工夫したことを歌に表そうと頑張っていたが、強弱や音色の変化に差がなかったため、上手にデクレシェンドしながら歌っている児童を紹介した。そうすると、自分はまだまだできていないと

	<ul style="list-style-type: none"> • 表現を工夫するために、どのような工夫ができるか例示し、考える手助けとさせる。 • 考える時に、「一度決めたら試して、更により案がないか再び考える」のサイクルで考えさせる。 • <u>タブレットで自分の演奏を撮影し、聴くことで、表現の工夫ができているかを確認させる。更により表現になるように練習させる。</u> 	<p>感じた児童が多く、更によくしようと練習することができた。</p> <p>「これじゃ、だめだ。」などをつぶやきながら、自分の演奏を振り返り、改善していた。</p>	
			
<p>第5時</p>	<p>○グループの中で、1人ずつ発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • それぞれが考えた表現の工夫が、歌に表せているかに注目して聴く。 • 思いや意図が歌に表せているかを判断基準とすることを確認してから、発表をさせる。 • 聴いた感想を伝え合う。 <p>○全体で、グループの中で1番表現できていた人の発表を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> • それぞれが考えた表現の工夫が、歌に表せているかに注目して聴かせる。 • 各グループの発表後に、各グループの表現と音楽を形づくっている要素を結び付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • とんびがどの様に飛んでいるのか、その情景にあった歌い方を考え、思いや意図をもって歌っている。 • 「思いが伝わったよ。」や「○○さんが強弱がよくできていた。」などの認める言葉が、あちらこちらで聞くことができた。友達に伝えようという意識をもって歌うことができたようだ。 	<p>思(観察・記述)</p> <p>知技(聴取・発言)</p> <p>態(観察・記述)</p>

(6) 成果と課題

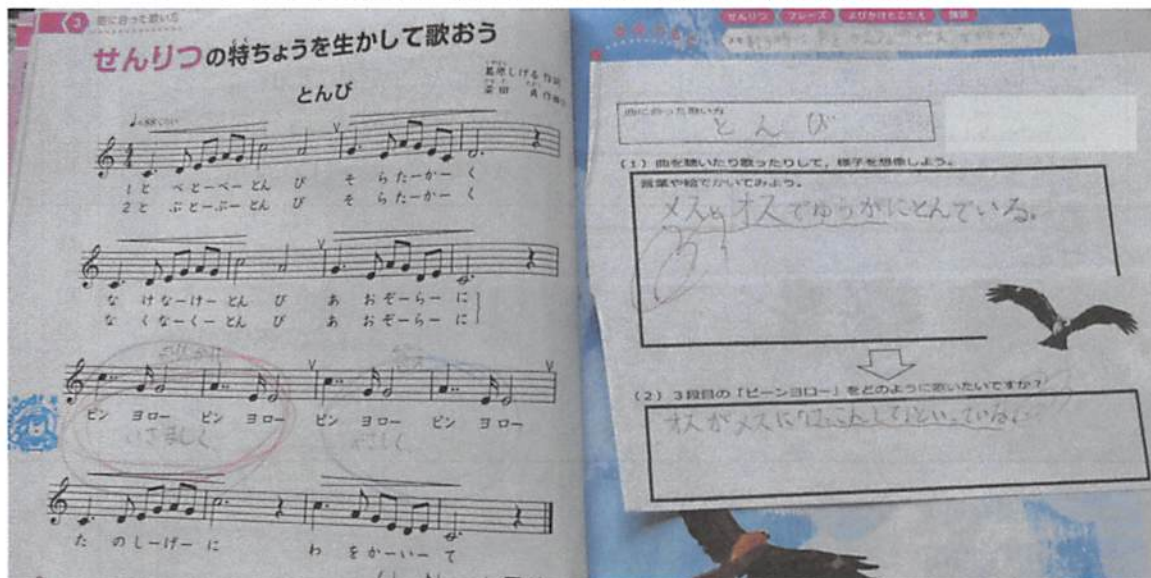
①成果 ○ミニ鑑賞で呼びかけとこたえを扱ったので、会話していると考えた児童の工夫に生かすことができた。

○コロナ禍で思い切り歌いにくい状況だからこそ、思いや意図をもって歌えるようにさせたと思った。個人でワークシートに思いを記入させたことで、自分の思いに向かって表現しようとすることができた。

○個人でタブレットに録画し確認することで、自分の演奏を振り返ることができた。人任せにできず、何度も録画して改善している姿が見られた。

②課題 ●タブレット録画に慣れるまでは、操作の仕方に手間取ったり、撮れたことが嬉しくて喜んでいたり時間がかかった。スムーズに行えるまで回数を重ねて、効果的に活用できるようにしていきたい。

●一人一人に音源があれば、更により表現になったと考える。



9 成果と課題

(1) 成果

- 表現活動、鑑賞活動ともに、教科書 P. 76 の「音楽の感じを表す言葉のれい」を活用して曲の感じや自分の思いを言葉にする活動を継続して行ってきたので、音楽の言葉を使って思いを表現できるようになってきた。
- ミニ鑑賞タイムを設けたことで、題材の中で感じとらせたい要素を意識させることができた。表現活動と鑑賞活動を意図的に組み込むことは、児童の学びに効果的であり、思いや意図をもつことにつながった。
- 初めて楽曲を聴いた時に、どんな感じがしたのかを考える時間を設け、それと音楽を形づくっている要素の動きとの関係を確認する流れで活動を行った。楽曲を聴いて感じたことが、音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さ、美しさによって作られていることに、気付くことができるようになってきた。今後も継続して行っていく。
- 専科が授業を行っていない低学年の学習でおさえるべきことやポイントを提示することで、1・2年担任が〔共通事項〕を意識して指導を行ってくれた。その成果として、今年度3・4年の児童は、「拍」や「呼びかけとこたえ」について、かなり定着がなされていた。今後も継続して行っていく。
- 友達と考えを共有する場面を設定することで、一人では思いや意図がもてなかったり、言葉にできなかったりする児童が、思いを表現するところまで深めることができた。また、「それいいね。」と深まりを感じられる言葉も聞くことができた。

○自分の思いを記入するワークシートを用意することで、主体的に取り組むことができた。

○タブレットで自分の歌声を撮影、視聴することで、思いが伝わる表現になっているかを確認でき、効果的だった。「更により演奏にするために役に立った。」と多くの児童が感じていた。

(2) 課題

●友達と考えを共有する場面を設定する際には、その目的、グループのメンバー、人数は適切かなど、効果的に行う準備が必要である。限られた音楽の学習の中で、音楽的活動を十分に確保し、思いをしっかりと表現できるようにしていきたい。

●タブレット撮影が慣れるまでに、操作面で課題が多くあった。以前に使っていたタブレットは、すぐに固まってしまうたり、聴く時にスピーカーが必要だったりした。今年度から富里市で準備されたタブレットは、音を拾う感度がよく、大勢の中でも問題なく自分の声を聴き取ることができた。児童も教師もたくさん使い、慣れることで有効に活用できると考える。

資 料 編



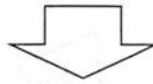
「とんび」の自分の思いを記入するワークシート

曲に合った歌い方

4年 組 番
名前

(1) 曲を聴いたり歌ったりして、様子を想像しよう。

言葉や絵でかいてみよう。



(2) 3段目の「ピンヨロー」をどのように歌いたいですか？

Blank box for student response.

曲に合った歌い方
とんび

(1) 曲を聴いたり歌ったりして、様子を想像しよう。
言葉や絵でかいてみよう。
「ピンヨロー」はお母さんが子どもと何回も話し
世話をしているみたい
1番はあいさつをして、2番はおがに飛んで遊ん
でいるみたい!

(2) 3段目の「ピンヨロー」をどの



Handwritten musical score for the song 'Tonbi' with lyrics and student annotations.

な けな-け-とん び あ おぞら-に }
な くな-く-とん び あ おぞら-に }

ピン ヨロー ピン ヨロー ピン ヨロー ピン ヨロー

た のし-げ-に わ をか-い-て

「森の子もり歌」の自分の思いを記入するワークシート

曲に合った歌い方

3年組 番名前 ()

(1) 1 番の母さん鳥とちびっこ鳥は、どんな話をしているのだろう？ふきだしに書き入れよう。

()

どんな音色で歌うと
合っているかな？

()

